

2020年^{ねん}10月^{がつ}
民俗^{みんぞく} — No. 2 1

けんぱくものしりシート

たい りょう ぎ 大 漁 着



その昔、太平洋沿岸の漁村では、予想外の大漁があると船主が漁師たちに祝いの晴れ着を配るならわしがありました。これが大漁着とよばれるものです。江戸時代の房総半島ではじまり、その後、静岡県から青森県まで広がったといわれ、明治から昭和のはじめごろさかんになりました。

大漁着は、多くが青や紺色の地に『大漁』・『海上安全』などの文字や、色鮮やかな縁起の良い図柄が染められています。岩手県沿岸部、三陸地方の漁村にも大漁着は数多く残されています。

たいりょう きねん した たいりょう ぎ うみ い ひとびと
 大漁があるたび記念に仕立てられた大漁着は、海に生きた人々のなりわ
 こころ い き ものがた いま つた
 いや心意気を物語り、今に伝えています。



さんりくちほう たいりょうぎ
 三陸地方の大漁着に
 そで もじ そ
 は袖に文字を染めたもの
 み
 がよく見られます。

たいりょう ぎ まいわい
 大漁着は万祝ともいいますが、
 いわて けんえんがんほく ぶ
 岩手県沿岸北部では『バンテン』、
 えんがなん ぶ
 沿岸南部では『カンバン』など、地
 いき かた
 域ごとによび方がちがいます。

マグロ・ブリ・
 カツオなど大漁だ
 たいりょう
 った魚を図柄にし
 さかな ずがら
 たものも多く、
 おお
 三陸の漁の様子が
 さんりく りょう ようす
 うかがえます。

ちようじゆ あらわ つるかめ しょうちく
 長寿を表す鶴亀や松竹
 ばい ずがら きけん とな
 梅の図柄には、危険と隣りあ
 わせで生きる、漁師たちの
 い
 祈りがこめられています。

しゃしん しょうわ ねん たいりょう とき つく やまだ まちふなこし せいさく
 写真は昭和28年、ブリ大漁の時に作られた山田町船越の“カンバン”です。制作し
 はなまきし いとうそめこうじょう さんりくちほう たいりょう ぎ かずおお て たいしょうじだい つづ そ
 た花巻市の伊藤染工場は、三陸地方の大漁着を数多く手がけた大正時代から続く染
 もの や たいりょう ぎ あみ もよう と い いんしょうてき
 め物屋です。この大漁着は、網を模様に取り入れたデザインが印象的です。

さんこうにした本
 『岩手県立博物館 研究報告第9号』岩手県立博物館 1991年
 『三陸の大漁カンバン—大漁祝い着の衣装—』大船渡市立博物館 1992年

らいげつ がつ
 来月(11月)の
 けんぱくものしりシートは
 げんせい せいぶつ
 現勢・生物—21だよ！
 おたのしみに！



岩手県立博物館
 〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
 ※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。